

岡部憲明氏が語る

ロマンスカーのアイデンティティ

引退したロマンスカーのパーツを、愛用しやすい形にリメイクする「ロマンスカーメモリアルパーツプロジェクト」。
最新作では岡部憲明アーキテクチャーネットワークと天童木工がコラボ。歴史的な名車を感じられる、素敵な家具に仕立てられた。

——岡部さんが初めて関わったロマンスカーはVSEですね

私は建築が専門で、ヨーロッパにいた頃にフランスのボンピドゥー・センターや自動車のフィアット、豪華客船なども手掛けてきました。小田急さんは、箱根の集客を高めるため、ロマンスカーを革新的に変えたい、と訪ねてきました。要望は①展望席の復活、②連接車両、③ときめくような内部空間、の3つでした。いろいろと調べ、アイデアを練りました。画期的なSEを出発点に、NSE以降は展望車になります。SEから始まる伝統に価値観が置かれていると思いました。

——鉄道車両特有の課題は？

——車体色も一変しました。最初はシルバーを提案しましたが、駅構内では黒く見えてしまうため、光によって変化するマイカが入ったシルキーホワイトにしました。帯の幅が広いとデザインを二分してしまうので、車体を分断しないように光で輝く赤いラインにし、下にグレーのラインを入れて締めました。これでラインを小田急のイメージシンボルとすることができました。

①前後にしか動かない、②編成が長い、という特徴があります。当初は11両編成の依頼でしたが、編成がシンメトリーになるように車体長を少し長くし、10両編成にしてもらいました。1両の車体長は13・8mと短く、狭小住宅の設計と似ています。限られた車両限界の中で空間を広くとるため、室内高を2550mmとして居住空間の良さを出しました。

外観は一つのオブジェとして見せるため、パンタグラフや無線の位置にもこだわりました。鉄道車両はさまざまな時間帯に、長い距離を、あらゆる季節に走ります。アルミ製の車体は、エッジを立てたり、水平に流れるラインを造ったりして、光によって物が反応するシャープな造形

——車体色も一変しました

最初はシルバーを提案しましたが、駅構内では黒く見えてしまうため、光によって変化するマイカが入ったシルキーホワイトにしました。帯の幅が広いとデザインを二分してしまうので、車体を分断しないように光で輝く赤いラインにし、下にグレーのラインを入れて締めました。これでラインを小田急のイメージシンボルとすることができました。

——MSEの車体色は青ですね

MSEは地下鉄に乗り入れるので、海の色、空の色を入れたいと思い、フェルメールの絵画の青をテーマに青をつくり、これにイメージシンボルの赤いラインを入れました。GSEは赤い車体に赤いラインをどうするか、色のターゲットを探しました。バラ園でローラという品種のバラを見て、オレンジ色に振ったローズババーミリアンをつくりました。これに7cm幅のラインを入れ、伝統の踏襲ができました。

——座席にも注力されました。SEでは座席まで軽量化したそうです。椅子に力を入れるのは、SEからつながるかもしれませんね。VSEでは背を薄くして開放感を高め、外

側に5度振って眺望を良くしました。

ロマンスカーは普通に乘れる列車なので、装飾性は少ないです。しかし、観光で乗るときは非日常を感じたいはず。そこで、GSEでは造形作家の岡崎乾二郎さんに表地をデザインしてもらい、椅子に華やかさを入れました。GSEで理想の椅子が完成しました。

——今回、SEの座席などのリプロダクトを手掛けました

鉄道車両も建築も長期間使用されます。その裏では日々のメンテナンスなどの積み重ねがあります。日本の鉄道史でも特別な存在のSEが、一部でも残るのは有意義です。今回、天童木工さんと組んで、鉄道の堅牢さと木材の軟らかさを組み合わせたデザインを試みました。部品が長年果たしてきた役割を感じてもらえると嬉しいです。



※撮影時のみマスクを外していただきました

ロマンスカーメモリアルパーツプロジェクト vol.3 第2弾プロダクト

引退したロマンスカーのパーツを、未永く愛用しやすい形にリメイクする「ロマンスカーメモリアルパーツプロジェクト」。vol.3の第2弾は岡部憲明アーキテクチャーネットワークと、木工技術に長けた家具メーカーの天童木工がコラボした。代表の岡部憲明さんは「木目の柔らかさと硬質なパーツの融合を楽しんでほしい」と語る。



SE・ロマンスソファ



SE・ロマンスカーテーブル



SE・走る喫茶室サイドボード



SE・ガラスキャビネット



SE・邂逅灯(ライトスタンド)



1.オフィスに並べられたクレイモデル 2.初作品となったVSE(50000形) 3.エッジや面の造形表現に使用された大型のクレイモデルと、最初にカラー提案したシルバーのVSE。駅構内で黒く見えるため、ホワイトに変更された 4.曲面ガラスを使用し、窓を大きくしたGSE(70000形)



岡部憲明(おかべのりあき) 1947年生まれ。1970年代からヨーロッパで設計に従事。1995年岡部憲明アーキテクチャー・ネットワーク設立。主な作品にボンピドゥー・センター、関西国際空港旅客ターミナルビルなど多数